医学史 No.2

感染症の歴史
—— ペストとスペインかぜが変えた社会と医学

🎯 **今日のゴール：** ペスト（14世紀）とスペインかぜ（1918年）という2大感染症パンデミックが、**医学・公衆衛生・社会制度にどのような不可逆的な変革をもたらしたか**を理解する。 歴史の知識を「なぜ現代の感染症対策はこうなっているのか」という問いへの答えとして使える力を身につける。

📌 この授業の問い

1. **ペストはなぜ「黒死病」と呼ばれ、ヨーロッパ人口の約3分の1を奪ったのか？**
2. **スペインかぜはなぜ「インフルエンザ」の中で特異的に致死率が高く、なぜ若者が多く死んだのか？**
3. **これら2つのパンデミックが「現代の感染症対策」の礎となった具体的な制度・概念は何か？**

※ 前回（No.1）で学んだワクチンの歴史（ジェンナー→パスツール→mRNA）と接続しながら読もう。

💡 ペスト（黒死病）—— 14世紀の大惨事

📜 歴史的事実

- **原因菌**：*Yersinia pestis*（エルシニア・ペスティス）——1894年、北里柴三郎とアレクサンドル・イェルサンが香港で同時発見
- **主な伝播経路**：感染ノミ→ネズミ→ヒト（腺ペスト）。肺ペストは飛沫感染
- **1347〜1353年のパンデミック**：ヨーロッパ人口の推定30〜50%（約2500万人）が死亡
- **「黒死病」の由来**：腺ペスト（鼠径部・腋窩のリンパ節腫脹）および敗血症性ペストによる皮膚の壊死・出血による黒変

🔑 ペストが生んだ制度革新

- **検疫（Quarantine）の誕生**：14世紀ヴェネツィアで船舶を40日間（quaranta giorni）港外停留させた制度が起源。現代の感染症法の検疫制度の直接の祖先
- **隔離（Isolation）の概念化**：感染者と非感染者を物理的に分離する発想が制度化
- **公衆衛生の芽生え**：ネズミ・ゴミの管理、死体の適切な処理が都市行政の課題となった
- **社会変革**：労働力不足による農奴解放の加速、中世封建制の崩壊への一因、ユダヤ人迫害・宗教的疑念の増大

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 感染症の歴史・ペスト・スペイン風邪で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

感染症の歴史・ペスト・スペイン風邪では、*感染症が社会を変えた根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 感染症の歴史・ペスト・スペイン風邪で採点者が見ているポイント

「感染症の流行が医療・社会制度・科学の発展を促した歴史的文脈を示した答案」が採点者評価を上げる

💡 **この授業の使い方**

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

📚 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。
大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座　© 清光教育総合研究所